

2026 年 9 月 18 日

日本原子力学会 2026 年秋の大会炉物理部会賞（優秀講演賞）選考について

炉物理部会部会長
選考小委員会
須山 賢也

炉物理部会では、2007 年度より、原子炉物理学分野の若手研究者・技術者の奨励を目的として、本分野において優れた活動を行っている若手研究者・技術者に対して、日本原子力学会炉物理部会賞を贈呈してきた。2024 年度に「炉物理部会の役割検討ワーキンググループ」を立ち上げ、部会が担うべき役割が議論されたが、そのワーキンググループにおいて、従来の部会賞（奨励賞）とは別枠で若手研究者・技術者に成功体験を与える機会創出が重要であるとの提言がなされた。その提言を踏まえ、2025 年度から、学生や若手研究者・技術者の研究開発および学会発表活動の活性化を目的として新たに優秀講演賞を設立した。（炉物理部会 部会賞表彰細則 1002-01-02 令和 7 年 3 月 7 日炉物理部会運営小委員会決定 以下『表彰細則』という）

優秀講演賞は、日本原子力学会「春の年会」・「秋の大会」で研究・技術開発等を発表した若手研究者・技術者（公募年度 4 月 1 日時点で満 35 歳以下の炉物理部会正会員または学生会員）を対象とする。審査は運営小委員会で定めた評価項目に基づき、聴講者が評点を投じ、その集計結果をもとに選考小委員会が候補者を選定し、運営小委員会の承認により表彰者を決定する。

今般、2026 年秋の大会の炉物理部会賞優秀講演賞の被表彰者を選考した。

1. 選考過程

(1) 部会賞の公募

炉物理部会メーリングリストを通じて、日本原子力学会 2026 年秋の大会の演題登録の際に、「優秀講演賞への応募希望」の旨を示す方法にて公募した。

公募期間：2026 年 5 月 25 日～2026 年 6 月 8 日

公募結果：8 件の講演について応募があった。

(2) 部会賞候補者の選定

表彰細則第 6 条「部会長、副部会長、庶務幹事および部会長の指名するその他の運営委員からなる 6 名で構成する。ただし、利害関係者は選考小委員会の構成員にならない。」に従い 6 名の選考小委員会を設けた。選考小委員会は、受賞候補者の講演に対する聴講者の評価をもとに、被表彰者を選考した。

優秀講演賞の評価は、以下に示す 3 つの項目で行い、それぞれ 5 点満点で聴講者

が専用フォームから回答し集計した。3つの評価項目は、学生・若手が対象であることから、テーマに左右される項目でなく、発表者自身の姿勢・努力が評価の対象とすることを目的に決定した。

＜優秀講演賞の評価項目＞

- 研究内容の質・妥当性
- 発表・伝達の明確さ
- 研究姿勢・将来性

上記項目に関する全評価データを分析し、評点の単純集計結果（生データ）と、評価者による偏りの低減を目的に Z スコア※を用いた結果をもとに講演の順位付けを行い、表彰細則で規定されている表彰者数3名程度に則り、両者の評価が一致した上位3名の講演を優秀講演賞の受賞が適切であると判断した。

$$\text{※ } Zscore = \frac{(\text{点数} - \text{その審査者の平均})}{\text{その審査者の標準偏差}}$$

(3) 部会賞表彰者の決定

部長は、選考小委員会による選定の過程と結果について、部会運営小委員会に報告し、選考小委員会によって選定された優秀講演賞3件の部会賞表彰が承認された。

2. 選考結果（講演番号順）

件名：有限要素法と JFNK を用いたフィードバックを伴う時間依存拡散方程式の強連成計算手法に関する検討

受賞者：笠間 陸斗（日本原子力研究開発機構）

件名：スペクトル干渉補正への POD+カーネル回帰の適用可能性

受賞者：三岩 深悟（北海道大学）

件名：マルチフィジックス燃焼計算システムの開発

(9) MCNP On-the-Fly Doppler Broadening による断面積内挿機能の実装

受賞者：森 海斗（電力中央研究所）

以上